

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ 先陣を切って 津田沼支部職場集会

不当処分を許すな

全支部で万全の闘争体制を!

五月一日、勤労千葉闘争委員会は、第七回支部代表者会議の決定に基づき、闘争指令第十二号「『本部』革マルスト破り集団の暴力襲撃を口実とした不当処分策動粉砕闘争の準備体制確立について」を発した。これを受けて津田沼支部は五月二日、全支部の先陣を切って職場集会を開催し、不当処分策動粉砕闘争の体制を圧倒的に確立した。津田沼支部は集会の成功を起点に不当処分粉砕、「津田沼特別班」解体へ向かって連日奮闘している。全支部はこの津田沼支部の闘いにつづけ!

集会は、当局・「本部」反動分子の一体化した不当処分策動、組織破壊攻撃に対する怒りの糾弾の場と化した。

基調報告にたった片岡支部長は、満身に怒りを表わして、次のように今回の不当処分策動の本質と狙いを具体的に暴露した。

「第一に、『正攻法』では勤労千葉をつぶせない現実から『五六・三』までに何としても勤労千葉の戦闘性を破壊せんとする権力・当局の焦りであること。第二に、『本部』反動分子の哀訴路線を利用し、『乗務員運用合理化』の早期集約『五五・一〇』先どり実施をもって、一気に『三十五万人体制』を完成させんとする当局。第三に、当局に『乗務員運用合理化』『五五・一〇』を売り渡すことをひきかえに、勤労千葉への弾圧・処分を哀訴し、当局の手をかり八月全国大会までには、『再建地本』のデッチ上げを画策する『本部』反動分子のなりふりかまわぬ焦りである。したがってこれに対し、津田沼支部は、こゝまで『本部』反動分子を追いつめた団結力と路線的確信をもって、怒りも新たに不当処分粉砕・『津田沼特別班解体』の闘いに立ちあがる。」

つづいて本部派遣の吉岡執行委員は、「今回の不当処分策動は、『三里塚・ジェット』と並ぶ勤労千葉の戦闘軸である『総武国電』の拠点津田沼支部に対する組織破壊攻撃だ。勤労千葉闘争委員会は不転の決意をもって闘いの先頭にたつ。この攻撃をはねのけ、五・二五三里塚へ総結集しよう。」と決意を明らかにした。

グラグラの「本部」派

「四・一五」以来の「津田沼特別班」なるもの実態は、「本部」反動分子の組合員のセクト的ひきまわしの現実をまざまざとさし示している。革マル・スパイ嶋田、斉藤(吉)を除く、すべ



「本部」反動分子が「最も頼り」にするはずの嶋田は完全に口を閉じ、班代表者であるはずの斉藤(吉)にいたっては、五月六日、「俺は責任者でも代表者でもない」と逃げ廻るしまつである。

この「再建」策動の破産的現実には「本部」反動分子が新たに行ってきたのが「千葉動力は必要か」なる「謀略ピラ」である。

それはさしあたり「動力車新聞」等に「勤労千葉内部から良心的組合員が決起」等と大書ししてとりあげんとする浅知恵であろう。

その内容たるや、昨年四月段階の「再建デマ情報」で使い回された誰かが信用しないデマを、あたかも勤労千葉組合員が「内部告発」をしたかのごとく書きつらねたものである。「謀略」をこととする「本部」反動分子の正体見たりである。

全組合員のみなさん。当局に弾圧・処分を哀訴し、「謀略ピラ」を使つての組織攪乱を策動する「本部」反動分子のあがきを、総決起体制で粉砕しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!